

2021年6月23日

TC S等株主提案否決に関する談話 －日本コンベヤ労働組合－

産業別労働組合 JAM

書記長 中井 寛 哉

2021年6月22日に開催されたNCホールディングス第5回定時株主総会で、TC Sホールディングス等による共同株主提案が否決された。

TC Sグループの支配から脱却する大きな第一歩として、日本コンベヤ労働組合の仲間とともに喜びを分かちあいたい。

長期にわたる日本コンベヤでの労使紛争は、昨年6月に梶原浩規社長の決断により、JAM日本コンベヤ労働組合との間で和解が成立した。しかし、TC Sグループはこのような動きに不快感を示し、梶原社長の解任と再度の組合弾圧に向けた体制を強化しようとしてきた。

今回の株主総会は、梶原社長がTC Sグループと正面から対峙し、絶縁状をたたきつけ、普通の企業になるための試練の場であった。このことから日本コンベヤの全従業員が、なおいっそうの団結強化を図り、立ち向かう必要があった。

JAM、JAM日本コンベヤ労働組合は、梶原社長から支持協力を求められ、共に闘うことを確認した。今回の勝利は、未だ3分の1の株を保有するTC Sグループとの闘いの開始宣言に過ぎない。

株主総会で発言に立ったTC Sホールディングスの高山芳之は、「労働組合とより良好で協調的な関係を構築することを目指す」との発言を行ったが、彼がTC Sホールディングスの代表取締役就任以降、一度も労働組合へ謝罪したことはなく、労働組合との協議に応じた事実も一切ない。

高山芳之が言動に責任を持つ経営者なら、明治機械、セコニック、ニッポー、それぞれの労働組合へ、まずは謝罪をしたうえで、失効させたユニオンショップ協定を早期に再締結すべきである。

そもそもTC Sグループの脱法的な「企業乗っ取り」手法は、金融商品取引法違反の疑いが強く、こうした企業の跋扈を許してはならない。

JAMは連合の仲間とともに、健全な労使関係の構築と、安心して働ける職場の実現を目指して、悪質な組合つぶしを断固として許さない闘いを今後も継続させていく。

以 上